

Nursing あい

北海道看護協会十勝支部ニュース

発行者 (社)北海道看護協会十勝支部
編集責任者 光 恵子

No.104

2020年12月発行



北海道看護協会 シンボルマーク

どうか私たちの苦悩をお聞きください

帯広中央病院 看護師 (ICT) 浅井 美奈

当院は、黒澤病院とおびひろ呼吸器科内科病院2病院が合併し、今年10月で1年を迎えました。新病院として統制が取れていない中、予防も治療もない感染症と向き合った感染対策チーム (ICT) の苦悩の一部を紹介します。合併4か月後、2020年2月雪まつり頃でした。「十勝にもコロナが来る」「十勝の患者さんを未知の病気から守りたい！」と発したICTメンバーの一言をきっかけに病院として動き始めました。まず、厚労省ガイドラインに従い、全職員へマスク装着徹底と手指消毒方法の統一。また全職員が閲覧できるグループウェアを活用し食堂の使い方・出勤基準などの院内ルールを“新病院ICT発足挨拶文”とともに掲載周知しました。それと同時進行でマニュアル作成・擬似患者対応に備えた院内導線確保に配置図面を片手に院内を彷徨う日々でした。3月医療物資不足で夜勤明けや休日職員が百円ショップにレインコートを買い走り、フェイスガードを手作り、N95

マスクの再利用など感染防止を考慮しながらの節約生活。

ICTが発信した情報を真摯に受け入れ協力してくれた職員に感謝しかありません。

8月北海道医療大学塚本先生（感染管理）の視察を受け、1番苦労したゾーニングに「それでいいわよ！」と評価を頂いた時、院内感染を起こしてしまうのではないかという恐怖・緊張感と不安をかかえたメンバーにとって心が救われる一言でした。これからも試行錯誤と苦悩の繰り返しと覚悟を決め、十勝医療に貢献できればと考えています。



N95マスクの再利用



疑似患者対応に備えて作成した車いす

当事業所の感染症対策と現状について

訪問看護ステーションたなごころ
所長 看護師

訪問にあたるスタッフの基本的な対応として、自分も含め周囲全ての人に感染リスクがあると想定し標準予防策を徹底して行なうようにしています。特に今回の COVID-19 対策においては、事業所の方針・対応について利用者・家族に説明する内容を文書にまとめ、訪問時に理解を得られるように説明をしました。ご自宅の洗面所を使用し手洗いをさせて頂く事、利用者・家族に発熱等の症状があれば訪問前に電話連絡を依頼、マスク着用や咳エチケットの励行、症状によっては訪問頻度や時間が変更になる可能性も盛り込み理解を得るようにしました。利用者の方から、このような時期だから色々な所に訪問に回っている私達の訪問を控えて欲しいという申し出もあり、必要に応じて電話での体調確認をさせて頂くケースもあります。訪問看護事業所向け対応ガイド等を参考に対応をしていますが、個々に違うご自宅の環境や介護状況、万全な防護具のない現状の中、独居の親

の介護の為、感染流行地域からの家族が入れ替わりで訪問されていました、高齢の利用者が多いため、誤嚥性肺炎や尿路感染症による発熱も多い中、診断がついていない状況の訪問は正直なところ大きな不安を抱えています。

COVID-19 対応が長期化する中、これまで経験したことのないストレスの中で訪問している現状があります。

1日でも早い収束を願いつつ、日々最新情報をチェックし最善の対応に努めてきたいと考えております。



クリアファイルを利用したフェースシールド



施設内感染研修 介護職員初PPE

COVID-19対策と現状について

帯広高等看護学院 看護師 土森 志乃



令和2年度は、COVID-19 という新興感染症が発生し、国際的な危機管理対応が求められる想像もしなかった事態となりました。当学院では道内初の感染者発生を確認後、学院内と実習先での感染防止策を検討しながら、手洗い・手指消毒とマスク着用、換気等、基本的な感染防止

策から取り組み始めました。ひとつでも感染を疑う症状のある学生は登校しないことを徹底し、毎朝健康チェック票の提出を義務づけ、担任が確認することから一日が始まります。緊急事態宣言が解除され臨時休校明けの6月からは、三密を防ぐためにZoomを使用した分散講義としました。看護技術演習は、人数を制限してローテーションすることとし、学習効果を考え試行錯誤中です。臨

地実習は、実習病院から示された実習受け入れ条件に基づき、実習開始前 2 週間は十勝管外を往来しないこと、アルバイトを中止する方向で学生に協力を求めました。実習生は毎朝の健康チェックの徹底とマスク及び現在はアイガードの装着、実習病院に到着した時点で再度検温し、結果を報告してから実習を開始しています。

今年は、卒業生と学院長及び教職員だけの卒業式、そして入学式、戴帽式と密を避けるための対

策は、人生の大切な節目である式典にも及んでいます。しかし、感染防止策を講じながら学修を保障し、看護教育の要である臨地実習を継続できるよう取り組むとともに With コロナ時代の学修支援のあり方を模索しながら変化に適応していきたいと考えています。



生活の場におけるコロナ感染対策

介護老人保健施設 アメニティ帯広 看護師 北畠 良子

施設は介護職が大半を占め、看護師のような専門的知識を有しておりません。

もちろんガウンテクニックなど未体験者ばかりです。施設を守れるだろうか…

そんな不安をよそに介護職員は手作りフェースシールド作成、対面を避けた食事席の工夫など、今できる事を考え行動としても頼もしい存在でした。

5月末から2か月弱、職員1名が茨戸アカシアハイツに介護派遣に行ってきました。

多くの職員が感染離脱、人員不足から食事は一日2食、入浴中止と介護崩壊と化した現場。そんな中、感染専門知識を有する先生が介入し指揮をとり始めてからは、一気に終息に向かったそうです。まさに「正しく恐れる」一人ひとりが正しい感染知識を持ち標準予防策の徹底を図る必要性を実感しました。

とはいっても、高齢者施設は生活の場として家族との時間、生きがいを見出すことも大切な役割です。

面会禁止中はスカイプ面会の他、「想い届け！」プロ

ジェクト」と題し、家族が利用者に手紙を書き、利用者が職員と一緒に返書する・イレギュラーな日々の中で介護、リハビリ職員のアイディアが光ります。

先日、十分な感染対策の中、制限以降初めてご家族を招き入れ敬老会を開催しました。

例年と異なる小規模企画となりましたが、笑顔に溢れる心温まる会となりました。

10月からは条件付き面会を再開しました。今後も感染対策の中に共生の視点も持ち併せながら、多職種で取り組んでいきたいと思います。



想い届け！プロジェクトにて家族の手紙に返信されている様子



スカイプ面会の様子



感染対策の中行われた敬老会

2020年度 労働環境改善講演会

「職場におけるハラスメントの予防と対策」を聴講して

医療法人慶愛 慶愛病院 看護師 中山 和枝

講義の中で「コミュニケーション」と「繰り返し伝える」事が大切と話していました。

- あなたの言葉や行動で〇〇さんは少しつらい気持ちになったようだよ。

- こんな言葉や行動は「パワハラ」になるんだって！注意しようね。
- 〇〇さんは、こんな事あなたに伝えたいんだよ。

職場内で「言いにくい相手」を作らないような、コミュニケーションの取り方、そして、パワハラでは無く指導だと相手に感じて貰える人間関係を作る事が出来たら良いと、つくづく感じました。



改めて「パワハラ」とは何かと考える機会になりとても勉強になりました。ハラスメントとは「他者に対する発言、行動等が本人の意図には関係なく、相手を不快にさせたり、尊厳を傷つけたり、不利益を与えること」。簡単に表現すると「嫌がらせ、いじめ」を示すようです。いじめや嫌がらせはどちらかと云うと「意識して行っている」様に感じます。でも定義によると「本人の意思に関係なく」とあります。問題は後者の無意識のハラスメントだと感じました。

指導や叱咤激励のつもりでも相手にとっては「不快や脅威」に当たり、知らずにパワハラ当事者になる場合があるという事です。パワハラは双方のためにならず「負」の連鎖になる可能性があり、職場に於いての損失そのものです。

前者の嫌がらせをしている場合は対応の方法もありますが、後者に対してはどのように指導をしてよいか、正直難しいと感じています。相手のために一生懸命に指導しているのに「もう指導できません」「何を言ったら良いですか？」と切り返されると次の言葉に詰まるのではないかと思いました。



令和2年度 高校生看護体験報告

JA北海道厚生連 帯広厚生病院 中村 利枝

高校生が看護師と共に看護体験を参加・見学することで、進路選択や職業確立の参考になることを目的に例年、高校生看護体験を実施しています。今年度は、新型コロナウイルスの影響により体験内容の変更、体験時間の短縮をして、令和2年7月27日～8月14日の期間で、高校生看護体験が終了しました。

参加高校は、音更高校・帯広大谷高校・帯広緑陽高校・帯広南商業高校・大樹高校・芽室高校・三条高校・帯広柏葉高校・帯広北高校・幕別清陵高校・足寄高校・本別高校・広尾高校・清水高校の十勝管内の高校14校が参加しました。全学年対象で188名が参加しました。

看護体験は、残念ながら各病棟で体験はできませんでしたが、感染対策に留意して、集合で、白衣に更衣し、手洗い・ガウン・手袋着脱、車椅子乗車・移送体験、看護師との談話を実施しました。アンケート結果からは、「実際に看護師の話を聞くことができて、自分の進路活動や将来を想像することにつながり良い体験になった。看護師に就きたいと再確認できた。患者さんがどんな気持ちになるか声掛けがどれだけ大事かわかった。このような体験ができるときがあればまた、参加したい」「手洗いしたときに菌が結構残っていたので毎日念入りに洗おうと思った。感染の恐ろしさや、消毒の回数をみて医療従事者の方々がどれだけ普段気を付けているか、自分の思っていたよりも対策が徹底していて衝撃を受けた」等の感想がありました。参加高校生の全員が今回の看護体験は職業選択に役に立つと答えました。

実際に患者さんに触れて、見て、聴いて、会話することはできませんでしたが、看護師との談話時間を設け、気になっていたこと、聴きたいことを知ることができる機会となり、良かったのではないかと思う。

これからも未来の看護師への応援を
続けていきたいと思います。



～看護協会十勝支部 令和2年度施設間交流研修～ 『感染管理研修』に参加して

2020年9月18日(金)

独立行政法人 国立病院機構 帯広病院 看護師 大瀧 幸代

新型コロナウイルス感染症の感染者が増加傾向にある中、感染に対する意識のあり方を改めて考えていかなければいけないと感じていたところ、小規模施設間交流事業で感染管理の研修があると知り、今回受講しました。

講義は「感染対策の基礎知識を復習しよう」というテーマで、実際に厚生病院で行っている対応を交えながら、感染の基礎知識、感染対策の基礎知識、新型コロナウイルス感染症についての内容を基盤に講じており、とても明瞭で分かりやすいものでした。

今回の研修を通して、感染対策に対する基礎を再学習し、新型コロナウイルス感染症の対応を学んだことは、標準予防策の重要性を改めて考える機会になっただけでなく、他施設での対応方法を知る

良い場となつたと思います。そして、院内感染を予防するためには、看護師全員が感染に対しての知識をしっかりと持つとともに、正しい方法で対応しなければならないということを強く認識しました。今後、当病棟看護師の感染に対する意識が向上するように、研修の学びを伝達し、感染対策の徹底が図れるように努めていきたいと感じました。

研修の多くは大都市を中心に行われるため、十勝管内で研修を受ける機会は多くありません。小規模施設間交流研修のような地元で受けられる研修が増え、看護師として成長できる場がもっと増えるといいと感じました。



北海道看護協会十勝支部会員数

(2020年6月28日現在)



会員総数

看護師・准看護師・助産師・保健師 合わせて

2,051名



編集
後記

コロナ禍で大変な毎日をお過ごしかと思います。遅くなりましたが皆様のご協力のもと、「ナーシングあい」の発行をすることができました。これから寒くなり忙しい日々が続くかと思いますが、お身体に気をつけてお過ごし下さい。

(広報委員／太田・細野・長内・谷口)